

## 【令和4年度】

# 地方創生交付金事業の 効果検証

### 【デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)活用事業】

- ・DXによる八代圏域ツナガル推進事業
- ・アフターコロナを見据えたアウトドアツーリズム振興による関係人口の創出

# 地方創生交付金事業 成果検証シート

## 1. 事業概要 (PLAN)

事業名	DXによる八代圏域ツナガル推進事業【事業期間:R3～R5年度】
総合戦略での位置付け	<p>基本目標1:地域の礎となる地域産業が興隆し魅力ある雇用があるまち</p> <p>基本目標3:地域の宝を活かした町内外の交流が盛んなまち</p>
事業の背景・目的	<p><b>【背景】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>八代市・氷川町・芦北町は、隣接していることから通勤・通学面でも結びつきが強い地域であり、定住自立圏形成協定を締結し、圏域全体での定住促進に向けて連携・協力を進めているところである。</li> <li>全国的にも人口減少が進行する中、八代圏域においても人口の自然減の拡大、さらに大学進学や就職などで地元を離れる若年者が非常に多く、人材不足による産業の衰退が危惧されていた。</li> <li>そのため、2016年からインターンシップを切り口とした若年者の定住促進、圏域内企業の魅力発信・企業価値向上を目的に「八代圏域ツナガルインターンシップ推進事業(前身事業)」を実施。インターンシップの取組みを通じて学生と企業との接点を作り、学生が域内企業を知る機会を創出することはできたものの、圏域内企業への就職者数は目標値に至らなかった。</li> <li>対象学生等への働くことへの理解は深まっている一方、圏域内企業の多くはホームページなどの情報発信ツールを整備していないことから、若年者にとっては、「地元就職先がない(希望する職種がない)」との印象を与えている。</li> <li>アフターコロナを見据えて多くの地方自治体が移住施策に積極的に取り組んでおり、地域間での競争が本格化しているが、受け手が必要とする情報が的確に伝わっていないことから、複合的な情報を広域的に発信できるシステムの構築及びワンストップで対応できる体制の構築が急務となっている。</li> <li>全国的にDXの機運が高まっているものの、中小企業においてはビジネスにどのようにつなげていくか方向性が定まっていない企業が多い。ITリテラシーの高い人材の不足やDXをサポートする企業が圏域内に少ないことも課題となっている。</li> </ul> <p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若年者にとって付加価値の高い情報を提供することで「圏域内企業を知らない」という現状を解消。同時に若年者の圏域内定着のキーマンである保護者及び高校等の就職指導教諭に対しても有益な情報を提供することで、若年者の圏域内定着を図る。</li> <li>圏域の情報を集約し支援窓口を一本化。移住後の生活設計に必要な情報を提供しコアにサポートすることでUIターン者の増加を図る。</li> <li>圏域内企業のDX及びサテライトオフィスの誘致により新たなビジネスを創出し、同職種の求人を確保することで移住・定住等施策をバックアップする。</li> </ul>

<p>事業の概要 (R3～R5年度)</p>	<p>※八代市及び芦北町連携事業として実施</p> <p>1 若年者の圏域内定着への対策【人への支援】 就職ガイダンスの実施、やつしろオシゴト図鑑の発行、実践型インターンシップの支援、圏域内高校におけるIT人材育成事業等への支援、高等学校就職指導教諭等との連携などにより、高校生に対し多くの圏域内企業の情報を提供し、圏域内就職を支援。企業側に対しても若年者を選んでもらえるような工夫を促し、その支援も実施する。</p> <p>2 UIJターン者等の支援【人への支援】 ターゲットに即した情報発信媒体の構築・活用、オンライン相談会の実施、圏域内企業とUIJターン者のマッチング、UIJターン者に対する個別支援などにより、幅広い年齢層へ広く情報を発信し、UIJターンを目的に圏域を訪れる方に対し支援を実施する。</p> <p>3 圏域内企業のDX推進【企業への支援】 DX導入セミナー等の開催、DXサポーター(仮)の配置、ICTによる販売促進活動の支援、副業人材の活用支援、サテライトオフィス等の誘致・支援などにより、DXに向け、企業に知識がない、方策や手法がない、適切なスキルをもった人材が獲得できない、サポート企業が少ないという環境を解消する取り組みを実施する。</p>
<p>交付金を充当する経費内容(R4年度計画)</p>	<p>・DXによる八代圏域ツナガル推進事業負担金 20,910千円(うち氷川町988千円) 八代圏域雇用促進センターへの委託事業として実施。 前年度に策定した行動計画を基に各種事業を本格的に実施。課題や改善点を抽出し、事業をブラッシュアップすることで、事業を着実に進捗させるための土台づくりとなる年度。</p> <p>【氷川町実施分】</p> <p>①行政内の関係部署との調整 ②本事業の進捗等に係る月次の担当者会議への参加 ③移住・定住施策の情報提供及び側面支援 ④誘致企業等の仲介支援</p>

## 2. 実施状況(DO)

<p>令和4年度実績額</p>	<p style="text-align: right;">988,000 (円) (うち交付金494,000)</p>
<p>事業実績</p>	<p>本事業の推進主体である八代圏域雇用促進センターにより、若年層の圏域内定着のため企業説明会及び就職ガイダンス等を計6回開催した。また、「オシゴト図鑑2023」として、既に作成されていた図鑑をデジタル化にて再構成し、圏域内の高校へ配布した。</p> <p>UIJターン者等への支援としては、オンラインでの相談イベントを3回開催した。(4回の予定だったが、参加者無しのため中止1回)</p> <p>圏域内企業のDX推進については、圏域内企業向けにセミナーを2回実施した。</p> <p>【氷川町実施分】</p> <p>①高校生インターンシップ受け入れのため、町担当課と調整・協議を実施。八代高校の生徒14名の受け入れをおこなった。</p> <p>②月次の担当者会議へ10回(実務担当者会議7回、UIJ担当者会議3回)出席し、八代圏域雇用促進センター、八代市、芦北町等と本事業の進捗等について確認、協議を行った。</p> <p>③オンライン移住相談イベントの1つの「先輩移住者トーク」では、氷川町へUターンで移住された方をゲストに招き、移住に関する自身の経験などを話していただいた。また、氷川町への移住を検討されている方に向けたオンライン相談会も1回実施し、参加された1名はその後氷川町へ移住された。</p>

### 3. 評価(CHECK)

本事業における重要業績評価指標	重要業績評価指標 (KPI)	事業開始前	令和3年度	令和4年度	令和5年度(事業終了時)		
	UIJターンでの就業人数の割合	目標値		42.00%	44.50%	47.00%	
実績値		42.00%	45.21%	45.75%			
20歳から39歳人口の八代圏域への定着率	目標値		91.30%	92.30%	94.30%		
	実績値	91.30%	91.54%	87.46%			
オフィス系職種の有効求人倍率	目標値		0.38	0.41	0.44		
	実績値	0.38	0.38	0.41			
成果・課題	【成果】 新型コロナウイルス感染症に配慮しながらの事業実施となり、オンラインでの移住相談や企業ガイダンスなどを実施したことで、「UIJターンでの就業人数の割合」「オフィス系職種の有効求人倍率」については前年度から増加しており、KPIも目標値を達成した。しかし、「20歳から39歳人口の八代圏域への定着率」については減少しKPIも目標値から下回る結果となった。						
	【課題】 企業におけるDXの推進については、企業間で知識や認識に差がある。企業によってはDXを進めなくては行けないと認識しながらも、何をどうしたらいいのかわからないという企業がある。また、求人は出しているが応募が無いという企業が多数あり、求職者の求める勤務内容や条件と実際の求人内容に差があり、うまくマッチングできていない部分がある。更に、ホームページを持たない企業もあり、インターネットで検索しても出てこないなどの理由で圏域内には仕事が少ないというイメージを持つ若年層が多い。 移住定住に関しては、「いい住サイト!」やインスタグラム、公式LINEなどの媒体があるが、それぞれの内容がまだ充実しているとは言えないため八代圏域のPRのため改善が必要である。						

### 4. 今後の方向性(ACTION)

今後の取組方針	<p>「20歳から39歳人口の八代圏域への定着率」が目標値を下回ったことから、その改善に向けた取り組みが必要である。20歳から39歳人口が流出する大きな要因としては仕事によるものが大きいと推察されるため、圏域内における企業の情報発信や、求職者とのマッチングを進める取り組みを行っていく必要がある。</p> <p>また、移住相談には必ず仕事のことも関わってくるため、市町で受けた移住相談で仕事の情報に関することは八代圏域雇用促進センターと連携して相談対応を行っていく。</p> <p>ホームページやSNSについては、情報発信のターゲットを明確にし、内容を充実させていく必要がある。</p>
---------	---

# 地方創生交付金事業 成果検証シート

## 1. 事業概要 (PLAN)

事業名	アフターコロナを見据えたアウトドアツーリズム振興による関係人口の創出【事業期間:R4～R6年度】
総合戦略での位置付け	基本目標3:地域の宝を活かした町内外の交流が盛んなまち
事業の背景・目的	<p><b>【背景】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・八代市・芦北町・氷川町の3市町は、生産量日本一を誇る八代市の冬トマトやい草、全国的にも知名度の高い氷川町の梨や芦北町のデコボンなどの優れた農産物を生産する第1次産業に加え、八代市においては製紙工場などの製造業も盛んであり、地域一帯は田園工業地域として発展してきた。</li> <li>・しかし、全国的に進む人口減少・高齢化・生産年齢人口減少の問題は3市町にとっても共通の課題となっている。そのため、この問題に歯止めをかけるべく、八代市・氷川町・芦北町で定住自立圏共生ビジョンを策定し、それぞれの特性を活かし様々な分野で連携を行っている。</li> <li>・当圏域には緑豊かな森林を持つ九州山地、天草諸島と九州本土に囲まれた穏やかな内海である八代海、日本三大急流の一つである球磨川を代表とする豊富な水資源など自然豊かな地域である。観光業でもそれら豊富な自然を活かした、トレッキング、ラフティング、伝統漁業などによる体験型コンテンツなどのアウトドアアクティビティが提供されている。</li> <li>・近年、全国的にキャンプブームが到来している。当圏域には新幹線の停車駅であるJR新八代駅があり、特に福岡市、熊本市、鹿児島市といった大都市からのアクセスはきわめて良好である。また、現存のキャンプ場に加え、八代市、芦北町では、新たなキャンプ場が整備されており、2022年にオープンする予定となっている。そのため、都市圏からのキャンパー客の増加が見込める状態にある。</li> <li>・さらに、当圏域にはなだらかな八代平野や八代海の景観を楽しめる海岸線などゆったりとしたサイクリングに適したルートがあり、また、九州山地に属する山岳地帯にはアップダウンの激しい上級者向けのルートもあり、ファミリー層から上級者まで、様々な形のサイクリングを楽しむことができる。また、2021年11月に当圏域及び近隣市町の水俣市・津奈木町を加えた5市町で、「八代及び芦北・水俣地域サイクルツーリズム推進協議会」を設立し、今後、サイクリストの誘致に向けて、道路面の整備を行う予定となっている。</li> </ul> <p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当圏域の3市町がそれぞれ策定している第2期総合戦略では、「地域資源を活かした多様な交流の実現」を目標としている。</li> <li>・日本遺産などの歴史文化や豊富な自然、景観などの地域資源を活用した、アウトドアツーリズムを推進し、圏域をアウトドアによるブランディングを行うことで、アウトドアファン層から選ばれる地域にすると共に、初心者やファミリー層が安心して、気軽に来訪できる地域にすることで、関係人口を創出し、「地域資源を活かした多様な交流」が進んだ圏域にする。</li> </ul>

<p>事業の概要 (R4～R6年度)</p>	<p>【1.Withコロナ・アフターコロナに対応したアウトドアツーリズムの推進】  ○キャンプ・サイクリングの2つを柱としたアウトドアファン層の誘客  ○アウトドアツーリズムをけん引する人材の育成及び新たな雇用の創出  ○JR新八代駅に、アウトドアに関する多様な機能を持ったゲートウェイ施設を建設  ○初心者やファミリー層が気軽に来遊できる手ぶらキャンプ事業の構築  ○道の駅、飲食店等へサイクルラック、自転車整備用工具等を配備</p> <p>【2.二次交通の強化と地域資源の活用について】  ○レンタサイクル事業による圏域内の二次交通の強化、既存の体験型アクティビティを活かした周遊ルート構築  ○サイクリスト向けガイドアプリ導入による圏域3市町の地域資源を活用した周遊ルートの作成、各地域の飲食店・宿泊施設などのサイクリスト受入れ環境の整備  ○キャンプ用品の配達サービス、キャンプ用品が積載可能なレンタサイクルの配備  ○地元農業者と協力したキャンプ客層への地元食材、県産品の販売</p> <p>【3.ブランディングの強化及び関係人口創出のためのプロモーション事業】  ○圏域連携によるアウトドアアクティビティに関するプロモーション  ○アウトドアファン層にフォーカスしたオンラインツアー等の開催や、観光展への出展等による情報発信の強化  ○マイクロツーリズムやワーケーションなどの反復性の高い旅行者への戦略的情報発信による関係人口の創出  ○遠方と近隣のサイクリストが同時に参加可能なサイクリングイベント、都心部と地元のビジネスマンの交流トークイベントなどの実施による、関係人口の創出</p>
<p>交付金を充当する経費内容(R4年度計画)</p>	<p>※令和4年度事業については本町経費なし</p> <p>初年度はマーケティングを実施し、圏域の地域資源を活かしたアウトドアツーリズムの方向性、求められる価値や機能、実現手段について、戦略及び事業計画を策定する。</p>

## 2. 実施状況(DO)

<p>令和4年度実績額</p>	<p style="text-align: right;">— (円) (うち交付金—)</p>
<p>事業実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトドアツーリズム実施に向けた会議(R4.12.21)</li> <li>R5.3月頃にサイクルツーリズムの実施に向けた現地サイクリング体験を実施、計画概要を確認し協議を実施した。</li> <li>・R5年度計画について計画の確認及び協議を実施(R5.3.10)</li> <li>・サイクリング動画撮影 八代～芦北～八代(R5.3.25)、八代市～氷川町(R5.3.26)</li> </ul>

### 3. 評価(CHECK)

本事業における重要業績評価指標	重要業績評価指標 (KPI)		事業開始前	令和4年度	令和5年度	令和6年度(事業終了時)		
	本事業における重要業績評価指標	サイクルツーリズムによる施設訪問者数(人)	目標値		0	2,000	5,400	
実績値			0	0				
キャンプ事業の利用申し込み数(件)		目標値		0	1,000	1,500		
		実績値	0	0				
アウトドアイベント参加者数(人)		目標値		0	200	300		
		実績値	0	0				
成果・課題	<p><b>【成果】</b> 本年度は会議が主で氷川町においての事業は実施していないため、成果はない。</p> <p><b>【課題】</b> 事業計画に基づき効果的な事業推進を図る。 また、八代及び水俣・芦北地域サイクルツーリズム推進協議会とも連携を図っていく必要がある。</p>							

### 4. 今後の方向性(ACTION)

今後の取組方針	<p>氷川町と八代市と芦北町の3市町の広域で事業を実施することにより、より効果的な地域の魅力発信が可能になり、関係人口の増加に繋がる。 そのために、R5年度において自転車用工具の設置によるサイクリング拠点の整備や誘客のためのイルミネーションの設置を実施する。</p>
---------	---